

へばだば 48

編集・発行/自立生活センターPingあおもり 就労継続支援B型事業所スタジオとまと 特定非営利活動法人ピアネット
038-0011 青森市篠田1-8-1 エムズコーポ101/tel./fax.017-761-2770/e-mail,ping@ping-aomori.jp
http://www.ping-aomori.jp/ping_page/index.htm 発行責任者/佐藤 広則

「へばだば」=津軽弁で、「じゃあね」というような意味。

障がいのある人と共に考える防災ワークショップ 開催報告

2015年2月1日(日)、自立生活センターPing あおもり主催「障がいのある人と共に考える防災ワークショップ」を開催しました。参加者数は、第一部・講演が47名、第三部・ワークショップが27名でした。

講演では、講師の青田由幸氏が震災後、南相馬市に取り残された障がい者の支援を行った経験を語り、「避難所の整備」や「要援護者リストの見直し」の必要性を訴えました。

ワークショップでは、ファシリテーター(青田由幸氏、鈴木絹江氏、鈴木匡氏、今村登氏)の進行のもと、大規模災害が発生した時、どのような対応をとるか話し合い、「人それぞれ意見や価値観が違うこと」を学びました。

※ 詳細は別紙やPing あおもりウェブサイトをご覧ください



来賓席。左から、大竹進氏(共催団体ピアネット監事)、佐藤広則(Ping あおもり代表)、鹿内博氏(青森市長)、青田由幸氏(講師)



第一部 講演「東日本大震災に おける要援護者支援の実際」



第二部 ワークショップ

48号もくじ

障がいのある人と共に考える防災ワークショップ開催報告 … 1	電動車いすサッカーチームPSCAJャーナル〜コパシナカップ2015〜 … 3
別紙 1・2	プレーヤーサポーター大募集。 … 3
アクセス調査TV取材編「ATVニュースワイド」がやって来た!! … 2	とまとの収穫祭 … 4
スタジオとまと管理者佐藤の研修報告 … 2	お花見のお知らせ … 4
会員募集 pingあおもり ピアネット … 2	「イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン」について … 4
作業風景エコ紙の作り方 … 3	編集後記 … 4

アクセス調査隊

TV取材編

「ATV ニュースワイド」がやって来た!!

青森テレビ(ATV)タ方のニュース番組「ATV ニュースワイド」でメインキャスターを務めている今泉清保(せいほ)さんから、「多目的トイレの問題を調べている。実際に使用している方に取材させていただきたい。」という依頼がありました。協議の結果、Ping あおもりの佐藤代表と松野事務局長がインタビューを受けることに。

インタビューは、一人ひとり、今泉キャスターの質問に答える形式で進められました。今泉キャスターからの質問は「多目的トイレを利用して困ったことは？」など。それに対し、佐藤と松野は、これまでに体験したトラブルを話し、障がいのある人にとって多目的トイレがいかに重要であることを説明しました。



インタビュー。写真手前右から、佐藤広則(Ping あおもり代表)、今泉清保さん(ATV ニュースキャスター)、カメラマン。
このインタビューの様子は、後日、ATV ニュースワイドで放送されました。

スタジオとまと管理者佐藤の研修報告

就労B型事業所向け経営講習会 平成26年11月30日(日)

福祉事業所へのコンサルティング会社の方を講師に「どう
いう事業所が工賃向上に成功しているか」「福祉の強みを
生かして」など事例を交えての具体的な講義だった。

青森県障害者権利擁護大会 平成26年12月16日(火)

沼田弁護士による講演「障害者の権利・利益擁護」
お笑い芸人松本ハウスによる講演
「統合失調症がやってきた!100人に1人のよくある話」
統合失調症は100人に1人の珍しくない病気だそうです

平成26年度障害者虐待防止
権利擁護研修 平成27年1月27日(火)

主に事業所の管理者を対象とした研修。午前は講義。
午後はグループワークでの事例検討
「この事例は障害者虐待にあたるか?」判断が難しい。

青森市法人後見研修会 平成27年2月17日(火)

講師は司法書士と一般社団法人権利擁護あおい森ねっと
成年後見制度及び法人後見についての講演及び実践報告

会 員 募 集

Pingあおもり

会費 年1,000円
特典 会報「へばだば」をお届けします。
行事に参加できます。

活動内容

- ・障害者による、重度障害者の自立支援
- ・車いすのアクセス調査

ピアネット

入会案内
正会員：一〇五,000円
賛助会員：一〇一,000円

活動内容

- ・就労継続支援B型事務所
スタジオとまとの運営
- ・日中一時支援事業
- ・相談支援事業

重度障害者にもくらしやすいまちづくり
を皆ですすめていきます。

連絡先

電話・FAX017-761-2770
e-mail: peanet@ping-aomori.jp

作業風景 エコ紙の作り方

紙パックを適当な大きさに切ります。



柔らかくなったら紙パックのフィルムを剥がし紙パックを細かく千切ります。



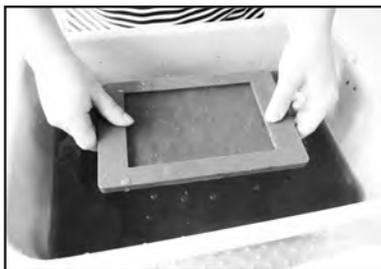
フィルムを剥がし紙パックを細かく千切る。



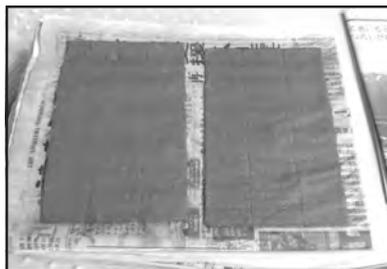
細かく千切った紙を一度乾かしミキサーにかけトトロの状態にします。(※ここでポイントなのが、できるだけ固形物をなくすこと。固形物があると完成品に大きな差が出ます。)



トトロになった紙を容器に移し塗料などで色を加えたら紙すきの道具を使って掬い、できるだけ薄く均等に伸ばしプレス機で乾かしたら完成になります。



容器に移し道具を使って掬う。



新聞で水分を拭き取る。



プレス機で乾かす。

電動車いすサッカーチーム PSCAジャーナル 電動車いすサッカー埼玉コバトンカップ2015

2月8日に行われた電動車いすサッカー埼玉コバトンカップにPSCあおもりの柿崎が個人で参加しました。

この大会は、参加選手がチームの枠を越え、3つの混合チームに別れてリーグ戦を行い、技術向上と交流の輪を深める電動車いすサッカーの大会です。

参加選手の中には日本代表で活躍している選手もいて、レベルが高くとてもいい勉強になりました。

詳しい内容は、ブログ青いとまとの(ブログ版 TAKEHIRO FOOTBALL LIFE) をご覧ください。



プレイヤーサポーター大募集中です!!



電動車いすを持っていない方でも、共用の車いすがあるのでプレイできます。

- ・練習は月1回から2回。
- ・練習内容はパス、PK練習など。

詳しくは e-mail:tomato@ping-aomori.jp

代表: 佐野まで

とまとの収穫祭

「とまとの収穫祭」では1月は鏡開きでお雑煮を食べました。2月はとまとの利用者が鬼に扮した豆まき。3月はひな祭りということで、ちらし寿司をつくり皆で会食しました。写真は2月と3月の収穫祭の様子です。

今月の「とまとの収穫祭」やスタジオとまとの行事はスタジオとまとのホームページ内の「スタジオとまとカレンダー」でも見ることができます。興味のある方は是非ご覧ください。



2月豆まき



3月雛祭り

お花見のお知らせ

日：平成27年4月27日(月)

場 所：合浦公園

参加費は無料ですが、飲み物・食べ物などは各自で用意するようお願いいたします。

雨天時はショッピングセンターに行く予定です。

問い合わせ・申し込み：須藤まで

就労継続支援B型事業所スタジオとまと

TEL/FAX 017-761-2770



イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン

ザ・ビッグ青森東店様より

寄付金額は14,200円でした。
ありがとうございました。

イオン「幸せの黄色いレシートキャンペーン」とは

イオングループが地域への社会貢献活動として「イオン・デー」にイオングループをご利用いただいたお客様より投函された黄色いレシートの合計金額の1%を活動団体に対し、1年に1回寄付して頂けるというものです。

編集後記

- 新年早々インフルエンザに見舞われる「J一家」。これ以上悪いことは起こりませんように。(J)
- 今年、和歌山県で開催される全国障害者スポーツ大会の出場が内定していたが、補欠になってしまった…悔しい!!!でも、プラスに考えれば来年の岩手大会に出れる確率が高くなったってことか??? (K)
- 観桜会の計画も着々と進む今日この頃です。青森の春本番もあと一歩ですね。浮かれ過ぎてコケないよう気をつけなきゃ! (A)
- 照明器具がガタついてきたので、LEDのシーリングライトを買いました。価格は蛍光灯の物とほぼ同じ。いつの間にか安くなってたんですね。(西滝)

- 障害福祉の変更が多くて、ついていくのが大変になってきました。ハードディスクの容量は減る一方なのに… (M)
- 少年時代には夢のアイテムだった腕時計型の電話器、実現したのに欲しい感がいまいちないのはなぜ?! (広)
- 今年は暖くなるのが早くて、良いのか悪いのかはやくも桜が咲きそうですね。(S)



障がいのある人と共に考える防災ワークショップ 詳細

第一部 講演

東日本大震災における要援護者支援の実際

講師：青田由幸 氏（NPO 法人さぼーとセンターぴあ 代表理事）

増え続ける震災関連死者

福島県内の東日本大震災、原発事故による直接死、行方不明者数は1828人。それに対し、震災関連死者数は1836人で、直接死を上回った（平成27年1月11日時点）。

これは、地震、津波に原発事故が加わり、ただでさえつらい避難生活がさらに過酷なものになったため、亡くなった方の多くは高齢者、障がい者である。

原発事故によって避難せざるを得ない状況に

地震、津波だけでは避難しなくてもいい人もたくさんいたが、原発事故のため町に残れず、避難を余儀なくされた。

福島原発20km圏内の人の中には避難回数が8～10回にもなるケースもあった。

避難所に入るためには、事前に「スクリーニング（放射性物質が付着しているかどうかの検査）」を受ける必要があるが、スクリーニング会場が周知されていなかったなど、必要な情報が被災者にうまく伝わっておらず、避難はより困難なものとなった。

避難所の整備が必要

どんな過酷な状況でも3割くらいの高齢者、障がい者は避難せず残る。

残る理由は「避難できる場所が無いから」で避難しないのではなく「避難できない」のである。

福祉避難所がある場合もあるが、大抵は2次避難所であり、まず一般の避難所に入らなくてはならない。

したがって、まず避難所を充実させることが求められる。この作業は市民主導でやるべきである。行政はそこまでやる余裕が無いからだ。

要援護者リストの見直しを

要援護者の安否確認、支援の効率化のため、要援護者リストを見直し、再作成するべきだ。

従来の「手上げ方式」の作成方法ではもれが生じるので、市民が作成に参加し、確認することが大事だ。

リストが完成したら、開示して欲しくない人に手を上げてもらい、それ以外は開示するべきである。災害時は強制的に開示できる。

参加者感想

- 報道等では耳にすることができない生の実態がお話の中から伝わり緊張しました。青森での取組みに役立てたい！
- 要援護者の為、福祉避難所を併設する等、具体的・現実的な提案があり、勉強になりました。
- 福島の生の声は説得力が違ふと思った。もっとこういう方たちの声をマスコミは伝えてほしい。多くの人に福島のことを知ってもらいたいし、知るべきであると思う。
- 大変現実的な内容で印象に残った。机上と実情のギャップをいかに埋めるかが重要だと感じた。

書籍紹介

さらに詳しい情報は講師の青田 氏共著「原発震災、障害者は…消えた被災者」をご覧ください



原発震災、障害者は…
消えた被災者

青田由幸・八幡隆司 著
解放出版社 発行

障がいのある人と共に考える防災ワークショップ 詳細

第二部 ワークショップ

小グループに分かれ、「青森市で大規模災害が発生」という設定で、クロスロードゲーム（災害時に考えられる困難な選択にYES、NOで自分の考えを示すゲーム）を行いました。

クロスロードゲーム想定

- 2015年2月3日(火) 15:00、東通原子力発電所敷地内にある活断層を震源とする巨大地震が発生。県内各所を強い揺れが襲う。
- 青森市で液状化、噴砂や地盤流動、地盤沈下が発生。自宅・事業所の倒壊の危険性あり。
- 電気、水道、ガス、通信などのインフラが停止。情報が錯綜。様々な生活物資の供給不足が発生。
- 除雪能力の低下により、幹線道路以外の道路が走行困難に。
- 東通原発で事故発生。放射性物質が漏えい。

問1 地震により建物倒壊の恐れ

- 強い揺れにより、自宅（事業所）の窓ガラスは割れ、壁や床には亀裂が走っています。棚からは物が落ち、足の踏み場もない状況です。
- 建物倒壊や家具の下敷きの心配があります。
- 自宅には一人、事業所には利用者が大勢います。
- 徒歩で30分位のところに指定避難所があり、避難することにしました。

YES or NO

結果

6：4の比率でYES（避難する）が多い結果となった。

YES（避難する）の人の主な意見は以下の通り。

- 倒壊の危険を考えると、動けるうちに動きたい。
- 自分の身を守るため、二次被害を防ぐため。
- 強い地震の後には必ず強い余震がある。まずその場から離れることが大事だと思う。
- 情報を得るため避難する。

「まずは自分の身を守る」という意見が多かった。

NO（避難しない）の人の主な意見は以下の通り。

- 今の時期、車椅子で外の移動は雪が多く難しい。
- 避難所生活が不安。
- 外へ出るとトイレが不安。
- 仕事なので利用者、職員の状況を確認する。

障がい当事者の「避難したくても出来ない」という意見が目立った。

問2 原発事故による避難について

- 原発事故により放出された放射性物質が青森市まで到達。避難指示（屋内退避）が出されました。
- 幹線道路の渋滞が始まっています。ガソリン不足のため、自力での広域避難が難しい状態です。
- 翌日には自治体が用意した最後のバスが出ます。移動場所や移動時間は分かりません。
- 家族会議の結果、避難せず残ることにしました。

YES or NO

結果

8：2の比率でYES（避難しない）が多い結果となった。

YES（避難しない）の人の主な意見は以下の通り。

- 事業所の指示に従い業務を行う。
- 利用者の対応を考えると残らざるをえない。
- 知らないところに行くのは不安。
- バスに乗って逃げるのは無理。
- 外に出ると不便な事が目に見えているから。

「不安で避難できない」障がい者と「サポートするため残らざるをえない」福祉職員という構図がはっきりと現れた。

NO（避難する）の人の主な意見は以下の通り。

- 数時間の移動かもしれないが、何日間も放射能にさらされる方が危険。
- やっぱり命が大切なので避難したい。

「放射能の危険性」をうったえる意見が多かった。